

## 2. 火山の概況 (平成 15 年 4 月 24 日 ~ 平成 15 年 4 月 30 日)

十勝岳では微動があった。三宅島では噴煙活動が継続した。八丈島では体に感じない地震が一時的に多くなった。薩摩硫黄島、諏訪之瀬島では噴火があった。

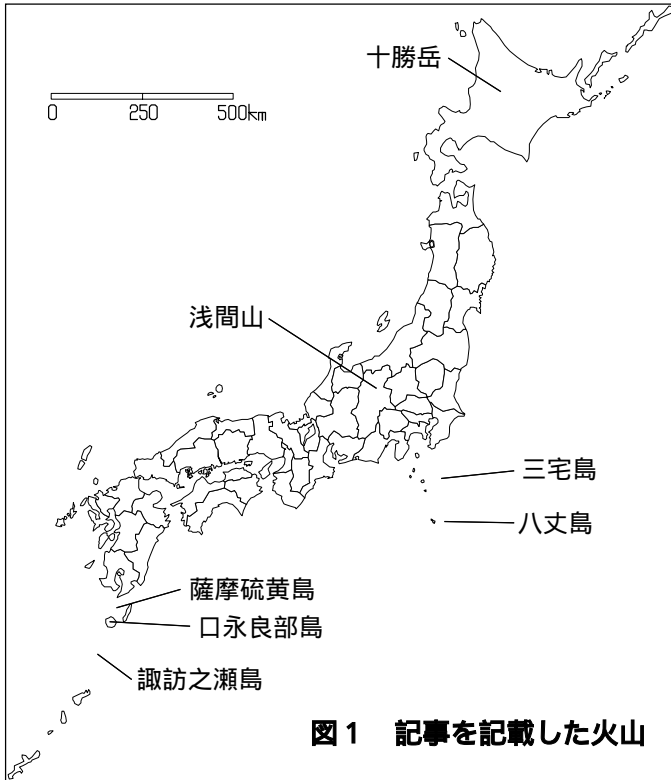


表1 最近1か月に記事を記載した火山

号	対象期間	雌阿寒岳	十勝岳	磐梯山	浅間山	御嶽山	三宅島	八丈島	阿蘇山	霧島山	桜島	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島
18	4/24- 4/30													
17	4/17- 4/23													
16	4/10- 4/16													
15	4/ 3- 4/ 9													
14	3/27- 4/ 2													

**注1 記号の意味**

- ：噴火した火山
- ：観測データ等に变化があった火山
- ：前期間までに掲載した火山の、その後の状況等

**注2** 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、变化があった観測データ項目を示す。

### 十勝岳 [微動]

27日22時37分頃から、継続時間が約20分間の微動(最大振幅0.1μm)が観測された。微動の発生は2月25日以来である。今回の微動の振幅及び継続時間は2月25日の微動と同程度であった。なお、微動の発生前後に地震の増加はなく、噴煙の状況にも特に変化はなかった。

### 浅間山

今期間は噴火はなかった。

白色噴煙の放出は継続しており、最高は火口縁上300m(29日)であった。

地震回数は、1日当たり8~29回で、これまでと比べ特段の変化はみられなかった。

群馬県林務部設置の高感度カメラ及び赤外カメラによる火口内の観測では、火口底が明るくなる様子が引き続き観測された。

GPS及び傾斜計による地殻変動観測では、特に異常な変化は観測されなかった。

### 三宅島 [噴煙]

白色噴煙は連続的に噴出しており、最高は火口縁上1,000m(28日)であった(前期間500m)。

今期間、山頂直下を震源とする震度1以上を観測する地震はなかった。

GPSによる地殻変動観測では、三宅島の収縮を示していた地殻変動は昨年夏頃からわずかな膨張に転じており、今期間もその傾向が継続した。

### 八丈島 [地震]

27日7時台及び19時台に、島内西山(八丈富士)付近、地下十数kmの深いところを震源とする地

震が一時的にまとまって発生した（発生回数 13 回、うち低周波地震 1 回）。それ以外は、1 日あたりの地震回数は 0 ～ 1 回で推移し、活動は低調であった。

### 口永良部島

前期間、一時的に多くなった微小な地震は、今期間は 1 日当たり 0 ～ 3 回、合計は 9 回（前期間 56 回）と低調であった。

### 薩摩硫黄島 [降灰]

三島村役場硫黄島出張所によると、28 日に島内の集落（硫黄岳の西約 3 km）で少量の降灰が確認された。

地震活動や微動の発生状況に、特に大きな変化はなかった。

### 諏訪之瀬島 [爆発・微動]

爆発が、26、28 日に 1 回ずつ、30 日に 3 回の合計 5 回発生した（前期間 2 回）。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、島内の集落（御岳の南南西約 4 km）では、26 日 14 時 24 分ころ爆発音が聞こえた。降灰は確認されなかった。

期間中、継続時間の長い微動がたびたび発生しており、火山活動はやや活発な状態となっている。

前期間の 20 日に一時的に多くなった A 型地震は、今期間は 1 日当たり 0 ～ 3 回と低調であった。B 型地震の発生状況には大きな変化はなかった。

**表 2 火山情報発表状況**

火山名	火山情報名	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報第 223 号 （1 日 2 回発表）	24 日 09:30	活動経過ほか（噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想）
	火山観測情報第 236 号	30 日 16:30	

## 「火山の概況」に関する解説

「火山の概況」では、噴火や定常状態から変化があった火山及び火山活動に関連する表面現象があった火山について、陸上火山については、各気象官署が収集した情報により、海底火山については、海上保安庁及び海上自衛隊の観測報告に基づき、その概況を記述する。また、時刻は日本標準時を使用する。「火山の概況」で用いる用語は次のとおりである。

### 噴火現象に直接関係して用いられる語

- 噴火** 火： 火口から火山灰等の固形物や溶岩を火口付近の外へ放出する現象。但し、噴火活動が活発な桜島では、火山灰を含む噴煙の高さが火口縁上概ね 1,000m以上となった場合に噴火としている。
- 爆発** 発： 噴火の一形式で爆発的噴火の略。地下の高温、高圧源での内圧が増大して起こり、音響とともにガス、水蒸気、岩石等を放出し、空振を伴う現象。時に火口や山体を破壊することもある。気象庁では、噴火に伴い発生した地震及び空振の大きさなどを基に、爆発的噴火であったかどうかを判断している。
- 空振** 振： 噴火などにより火口から物質が放出される際に発生した衝撃波などが、空気中を伝わり観測される音波。爆発的な噴火では大きな空振が観測される。人間が聞こえない低周波の音波まで観測できる「空振計」と呼ばれる測器で観測する。
- 階級 大：窓ガラスなどが激しく振動し、時には破損することもある程度。  
中：だれにでも感じる程度。  
小：注意深くしていると感じる程度。
- 鳴動** 動： 火口またはその付近に音源を持つ連続的な音響で、特に火山活動に関連して起こるもの。時には震動を伴うものもある。
- 噴石** 石： 噴火の際に噴出される溶岩または火山体を構成する岩石の破片。
- 降灰** 灰： 火山灰、火山砂、火山礫が降下する現象。

### 地下の震動に関して用いられる語

- 火山性地震**： 火山体または火山付近を震源とする地震。「火山の概況」中の地震とは、主に火山性地震をさす。地震の発生原因やそれを反映した地震波の特徴から、以下のような分類をすることがある。
- A型地震**： 火山性地震（火山体及びその周辺で発生する地震）のうち、P波、S波の相が明瞭で、比較的周期が短い地震。火山以外で一般的に起こる地震と同様、地殻の破壊によって発生していると考えられ、火山活動に直接関係する発生原因の例としては、マグマの貫入に伴う火道周辺での岩石破壊が知られている（1990年の雲仙岳、2000年の有珠山・三宅島など）。
- B型地震**： 火山性地震のうち、相が不明瞭で、比較的周期が長く、火口周辺の比較的浅い場所で発生する地震。火道内のガスの移動やマグマの発泡などにより発生すると考えられているものもある。火山によっては、過去の事例から、火山活動が活発化すると多発する傾向がある事が知られている。
- 火山性微動**： マグマや熱水の移動等に関連して発生する地面の連続した震動。「火山の概況」本文中の微動とは火山性微動をさす。
- 日回数**： 現象の1日の回数。例：火山性地震の日回数は20回
- モホ面**： 地殻とマントルの境界の不連続面。発見者の名前にちなんで名付けられたモホロビッチ不連続面の略。

### 阿蘇山の火山活動の記述で主に用いられる語

- 孤立型微動**： 火口直下のごく浅い場所で発生する継続時間の短い微動。阿蘇山ではこの微動の増減が火山活動を評価する指標の一つとなっている。
- 湯だまり**： 活動静穏期の中岳第一火口内には、地下水などを起源とする約 50～60 の緑色のお湯がたまっている（湯だまり）。火山活動が活発化するにつれ、湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少がみられ、その過程で土砂を吹き上げる土砂噴現象等が起こり始めることが知られている。